

平成27年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果
(平成28年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成27年7月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成28年3月

農林水産部長 中村 保博

項目	実施結果
<p>1 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇食料産業パワーアップ</p> <p>○競争力を高める福井米づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ポストこしひかり」の現地実証栽培を県内5か所で実施し、米の専門家による食味評価を行うことにより、4種にまで候補を絞り込みます。 ・「ポストこしひかり」のブランド化戦略策定に向けた専門家の意見聴取を行います。 ・農地の集積・集約を進め、100ha規模のメガファームへの規模拡大と経営力を向上します。 (平成26年度累計 5組織) <p style="text-align: right;">3組織増 累計8組織</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>現地実証栽培圃を福井市寺前町、坂井市坂井町折戸、大野市上野、越前市北町、小浜市新保の5か所に設置し、条件の異なるいずれの栽培地においても、食味に優れ、高価格での販売が見込める候補を10種から4種にまで絞り込みました。</p> <p>平成28年度中のブランド化戦略策定に向けて、消費者の動向や他県ブランド米の状況などについて、食の専門家、料理人、米穀卸売業者、マスメディアの17名から意見を伺いました。</p> <p>農地中間管理機構を活用し、農地の集積・集約を進めた結果、小浜市宮川地区の150ha規模のメガファーム「株式会社 若狭の恵」をはじめ、新たに3組織を育成し、県内のメガファームは8組織となり、直売の拡大や園芸の導入により経営の多角化を進めました。</p> <p style="text-align: right;">3組織増 累計8組織</p>
<p>○九頭竜川地域 農と水の振興ビジョンの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間かんがいと農薬の使用量を減らしたコシヒカリの生産を、パイプライン通水エリアの全域で実施します。 (平成26年度累計 875ha) <p style="text-align: right;">925ha増 累計1,800ha</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三里浜砂丘地でメロン、コカブ、ラッキョウ等の生産を拡大します。 (平成26年度累計 138ha) <p style="text-align: right;">7ha増 累計145ha</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>パイプラインの冷たくてきれいな水を活かした夜間かんがいによるコシヒカリの栽培面積を、地域全体で前年の875haから1,828haに拡大し、高価格販売につなげました。</p> <p style="text-align: right;">953ha増 累計1,828ha</p> <p>三里浜砂丘地において、耐候性ハウス56棟、1.6ha、防砂ネット2.1kmの整備を支援し、春作と秋作のメロン、冬作のコカブ、ラッキョウ等の作付を148haまで拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">10ha増 累計148ha</p>

項目	実施結果
<p>○福井の野菜・果物をもっと市場へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周年出荷を目指した大規模施設でミディトマト等の生産を拡大し、関西市場を中心に販売します。 (平成26年度 55 t) <p style="text-align: right;">150 t</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田地域においてネギ、キャベツ等の生産を行う集落営農組織、認定農業者を育成します。 (平成26年度累計 73組織等) <p style="text-align: right;">37 組織等増 累計 110 組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブドウを重点4品種に絞って作付を拡大し、シャインマスカットや藤稔等を組み合わせた贈答用のセット販売等を行います。(平成26年度 21 t) <p style="text-align: right;">35 t</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>本年度から新たに高浜町と小浜市においてミディトマト等が生産開始となり、大規模園芸施設での生産は4か所で合計5.3haの面積となり、販売量が270tに拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">販売量 270 t</p> <p>水田を活用してネギ、キャベツ等を生産する集落営農組織等を新たに53組織育成し、栽培面積は55ha増の144haに拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">53 組織等増 累計 126 組織等</p> <p>直売所での販売用に贈答用パッケージ作成などふくいブドウネットワークの活動を支援し、栽培面積が2ha増の11haとなり、販売量は37tに拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">販売量 37 t</p>
<p>○「福井百歳やさい」の生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統野菜を「福井百歳やさい」として生産面積拡大を支援します。 (平成26年度累計 9.6ha) <p style="text-align: right;">2.4ha 増 累計 12ha</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業試験場に「種苗供給センター」を設置し、「福井百歳やさい」の種子を供給します。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>山内かぶらについては、栽培講習会による新たな生産者の開拓、越前白茎ごぼうについては、春播き栽培実証圃の設置、菜おけについては、岡保地区全体での生産体制の確立に向けた活動等を行うことで、各生産者団体において生産が拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">2.4ha 増 累計 12ha</p> <p>種苗供給センターで、杉箸アカカンバ、菜おけ等20種の百歳やさいの種子を生産し、古田苧かぶら、山内かぶら、杉箸アカカンバなどの種子を供給しました。</p>
<p>○若狭牛の生産・販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若狭牛の導入支援や飼料米の活用により、三ツ星若狭牛の生産・販売を拡大します。(平成26年度 1.5億円) <p style="text-align: right;">2 億円</p>	<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>三ツ星若狭牛の販路開拓を行い、県内を中心に取扱店舗数を70店舗に倍増させ、認証頭数は昨年(平成25年度)の4割増の215頭、販売額は7割増の2.5億円となりました。</p> <p style="text-align: right;">販売額 2.5 億円</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○6次産業のスケールアップ</p> <p>・サトイモアイスやいかへしこオイル漬けなど新商品の開発、食品加工工場等への支援、インターネット通販サイトへの活用等により、6次化商品の販売額を増やします。 (平成26年度 1.2億円)</p> <p style="text-align: right;">1.7億円</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>料理研究者やデザイナーなどの専門家の派遣や技術相談・研修を行い、梅サイダーやいかへしこオイル漬けなど27商品を開発し、これまでに開発した商品数が114に増えました。</p> <p>これら6次化商品の求評会や小売業者、飲食店、宿泊業者等との商談会の開催により、商品の販売額は1.7億円に増加しました。</p> <p>さらに販売額を拡大するため、食品加工施設の整備に向けた計画策定やインターネット通販システムの整備を行いました。</p> <p style="text-align: right;">1.73億円</p>
<p>○試験研究改革</p> <p>・田起こし作業の自動化、施肥量自動調節、水田の均平化、衛星画像を用いた稲の生育診断技術について企業・大学と共同研究を行い、省力化・高品質・高食味につながる技術を確立します。 (平成22～26年度 4件)</p> <p style="text-align: right;">3件</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>田起こし作業を自動化する無人トラクタ、地力に応じて施肥量を自動調節できる田植機、ICTで水田を大区画・均平化できるブルドーザについて企業と共同研究を行いました。</p> <p>田植機については、施肥量を2割削減し、品質を1割向上させるものであり、4月から販売される予定です。</p> <p style="text-align: right;">3件</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇「里山里海湖ビジネス」の新展開 【部局連携】</p> <p>○中山間産業の新スタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地の維持管理が困難な中山間地域等においてJA等による広域作業受託組織を育成し、耕作放棄を防ぎます。 (平成26年度累計 1組織) <p style="text-align: right;">2組織増 累計3組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 中山間地域へ収益性の高い施設園芸や、鳥獣害の少ない果樹栽培を推進します。(平成26年度 -) <p style="text-align: right;">9か所、1ha</p> <ul style="list-style-type: none"> 特用林産物については、ジャンボしいたけ(香福茸)、菊炭、くず、オウレンなど付加価値の高いものや本県独自の品目を支援し、生産・販売を拡大します。(平成26年度 5億円) <p style="text-align: right;">5.7億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに炭焼きを行う人材を育成するとともに、炭焼きに加え薪やしいたけ生産など、里山資源を活用したビジネスモデルを確立します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>JA福井市、JA越前丹生、JA吉田郡の3JAに広域作業受託組織を設立し、中山間地域での水稲、そば等の作業受託を、新たに延べ70haにて行いました。</p> <p style="text-align: right;">3組織増 累計4組織</p> <p>鳥獣被害の少ない果樹の実証圃を福井市大年町(カリン)、敦賀市杉箸(クルミ)など県内4か所に設置しました。また、永平寺町轟、大野市野中、高浜町鎌倉など県内6か所において施設整備の支援を行い、トマトやナス、キュウリなど収益性の高い野菜への転換を進めました。</p> <p style="text-align: right;">10か所 1ha</p> <p>ジャンボしいたけ(香福茸)については、香福茸生産組合を設立し、3者が生産を開始しました。 菊炭については、福井市内での炭窯整備、くずについては、若狭町内の和菓子店と共働での新商品開発、林業遺産に認定されたオウレンについては、伝統技術の継承のため、研修会の開催にそれぞれ支援しました。 あわせて大野市内とおおい町内に整備した生産施設の本格稼働によるシイタケの増産や、山の市場の整備による薪の増産などにより、特用林産物の生産・販売を拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">5.7億円</p> <p>福井炭焼きの会が行う研修の開催を支援し、新たに炭焼きに取り組む人材の技術習得を進めました。 また、炭焼きの材料となる木の調達に合わせ、薪やしいたけ栽培用の原木生産を開始しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○福井型・新グリーンツーリズム</p> <p>・ミニ農家レストラン、ミニ直売所、体験交流型農園、オーベルジュの整備を支援することにより、里山里海湖ビジネスを推進します。(平成26年度累計14か所)</p> <p style="text-align: right;">30か所増 累計44か所</p> <p>・漁業体験メニューの拡充や昼食利用の促進等によりさとうみの宿の売上額を増加させます。 (平成26年度 36億円)</p> <p style="text-align: right;">37億円</p> <p>・里山を巡りながらふるさとの自然・歴史・文化と触れ合うトレイルコースを、既設の林道等を活用しながら設定し、地域資源を活用した誘客を進めます。(平成26年度 -)</p> <p style="text-align: right;">1千人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県、17市町、関係団体等が連携して中山間地の自然環境や文化等を活かした誘客を進めるため、昨年8月に「ふくい里山里海湖ビジネス協議会」を立ち上げました。また、農家レストランや直売所等を整備し、各市町に特色あるモデル地区を設定して組み合わせたモデルツアーの商品化を進めました。</p> <p style="text-align: right;">30か所増 累計44か所</p> <p>新たに、親子釣り教室(坂井市、小浜市)、ワカメ刈り体験(小浜市)を開始するとともに、シーカヤック体験(若狭町)、へしこ作り(南越前町、小浜市)など体験メニューの追加、地魚を使ったランチの提供、リフォームなど(10軒)の環境整備により、誘客を促進し、売上が増加しました。</p> <p style="text-align: right;">37億円</p> <p>美しい里山の自然景観や、歴史・文化を巡るトレイルコースを3コース設定し、コースマップの作成や、ルートや見どころを案内するスマートフォン用アプリを開発しました。 また、設定したトレイルコースで「朝倉トレイルラン2015」などのイベントを開催し、約1,000名の参加者を集めました。</p> <p style="text-align: right;">1千人</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○鳥獣害の被害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害の実態に応じた電気柵・金網柵等の整備や地域ぐるみの追い払い活動等を行い、被害防止を促進し、農作物被害面積を減らします。 <p style="text-align: right;">250ha</p> <ul style="list-style-type: none"> シカの捕獲技術の向上を図るための研修会の開催や優良捕獲者の登録・派遣を行う人材バンクを設置することで、捕獲体制を強化し、有害鳥獣捕獲頭数を増やします。 <p style="text-align: right;">18,000 頭</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>集落リーダー研修会等を通じて集落全体で鳥獣害対策を進めるとともに、獣種に応じて金網柵や電気柵、ネット柵を9.9km整備し、被害防止に努めました。</p> <p>また、電気柵の見回りを省力化するための遠隔監視システムを来年度から県内集落に普及していきます。</p> <p style="text-align: right;">250ha（見込）</p> <p>くくりわな猟と銃猟の現地研修による捕獲技術の向上や、優良捕獲者の登録・派遣を行う人材バンク（登録71名）の設置により捕獲体制を強化しました。</p> <p style="text-align: right;">18,000 頭（見込）</p>
<p>◇「ふくい食のブランド」を地消・外商【部局連携】</p> <p>○日本でいちばんおいしい学校給食へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食畑での畑作体験の促進や和食・郷土料理を取り入れた地産地消給食の導入を進めます。また、農作業をこどもたちが手伝う環境づくりを進め、農業と食に対する認識を深めます。（平成26年度 107校） <p style="text-align: right;">130校</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>畑作体験の実施に向け市町と共働し、全小学校への働きかけや生産者等との調整を行った結果、学校給食畑の実施校は132校に増えました。また、11月24日和食の日に、全国で初めて県内全ての全小中学校で実施した地場産100%和食給食などにより、地場産食材使用率は43.5%に上昇しました。</p> <p>さらに、ふくい食育リーダーによる子どもたちへの田植えや稲刈り、野菜の種まきなどの農業指導等を40回実施し、環境づくりを進めました。</p> <p style="text-align: right;">132 校</p>
<p>○福井ゆかりの店ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 大都市圏で県産食材のPRや、販路拡大につながる「福井ゆかりの店」を開拓します。（平成26年度 -） <p style="text-align: right;">170店</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました</p> <hr/> <p>店舗への営業活動をはじめ、産地視察対応や生産者への物流費支援などにより、178店（首都圏119店、関西圏59店）が「福井ゆかりの店」に登録しました。</p> <p>また、登録店では、園芸カレッジのパフレット設置や観光ポスターの掲示により、情報発信拠点として各種施策をPRしました。</p> <p style="text-align: right;">178 店</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○海外に売り込む「福井の食」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールやタイで本県の農林水産物や加工品を取り扱う飲食店を開拓します。(平成26年度累計 2店) <p style="text-align: right;">8店増 累計10店</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾やタイ、シンガポールにおいて、J A、県漁連、企業等と共動で販促活動を展開し、新たに輸出に取り組む県内企業を増やします。(平成25年度 輸出に取り組む県内企業 14事業者) <p style="text-align: right;">18事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J Aや県漁連、生産者と共動で都市圏の一流ホテルや大手百貨店に食材を売り込むマッチング商談会を開催します。また、ホテルやレストラン等での「福井フェア」を拡大し、大都市圏の消費者が福井の食を知り、味わう機会を増加します。(平成26年度 福井フェア開催件数 24件) <p style="text-align: right;">27件</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました</p> <p>シンガポールの日本料理店で、県産食材、酒、伝統的工芸品、観光をセットで紹介する食文化提案会(1月)を開催しました。現地の料理人やバイヤーからは、「おいしさや見た目の美しさがすばらしい」との高い評価を得、越前がにや蕎麦、米など、県産食材を使用する飲食店を新たに8店開拓しました。</p> <p style="text-align: right;">8店増 累計10店</p> <p>台湾の高級スーパー「裕毛屋」で開催した福井県物産展において6社が出展し、実演販売を初めて実施するなど、県や事業者が一体となり福井の食や観光地をアジアの富裕層に売り込みました。</p> <p style="text-align: right;">21事業者</p> <p>東京において、福井銀行と共動しマッチング商談会を開催し、J A経済連や県漁連、生産者、蔵元などの県産食材を、首都圏の一流レストランのシェフや百貨店のバイヤーなどに売り込みました。</p> <p>また、ホテル日航立川やメトロポリタンエドモントなど発信力の高い大都市圏のホテルや百貨店において、「福井フェア」を開催し、大都市圏の消費者が、越前がにや若狭ぐじ、越前おろしそば、地酒など福井の食の魅力に触れ、味わう機会を拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">28件</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇もうかる漁業へ転換加速 ○里山里海湖の「宝」を福井ブランドへ</p> <p>・漁獲直後から他のカニと区分して取扱 い、さらに規格、品質で厳選した「プ レミアム越前がに」(仮称)を新たに 販売します。(平成26年度 -)</p> <p style="text-align: right;">500 杯</p> <p>・国内外で需要の高いトラウトサーモン の種苗生産施設、大型養殖施設の整備 を支援し、日本一の生産地を目指しま す。(平成26年度累計 1か所)</p> <p style="text-align: right;">1か所増 累計2か所</p>	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>重さ、甲羅の幅、爪の幅の厳選された最高級品を「越前が に 極」として販売を開始し、県内の料亭、旅館、観光客等 から高い評価を受けるとともに、「極」の効果により、雄がに 全体の生産額、平均単価とも2割増加しました。また、福井 ゆかりの店への販路開拓を行うとともに、全国放送のテレビ 番組で紹介するなど、PRに努めました。</p> <p style="text-align: right;">406 杯</p> <p>おおい町大島に大型円形生簀を設置し、嶺南地域において もトラウトサーモンの養殖を開始しました。また、福井市鷹 巣沖では、ふくいオープンイノベーション推進機構と協力し て開発した国内初となる防水型自動給餌機を導入し、安定し て給餌できる体制を整備しました。</p> <p style="text-align: right;">1か所増 累計2か所</p>
<p>○地魚の加工・流通拡大</p> <p>・平成28年4月の稼働に向け、敦賀市 で水産加工施設の整備を進めるとと もに、福井ゆかりの店や首都圏での商 談会等を活用し加工品販売額を増加 させます。(平成26年度 371億円)</p> <p style="text-align: right;">375 億円</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>水産加工施設は、加工品の試作品作りや学校給食への供給 や量販店向けなど販路の確保に努め、平成28年5月の本格 稼働に向けて準備を進めました。 また、福井ゆかりの店や首都圏での商談会を活用して、水 産加工品を売り込みました。</p> <p style="text-align: right;">375 億円</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇森を市場にもっと直結 ○県産材をフル活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ林業を実施する集落をこれまでの2倍に拡大、さらに国道や県道などの主要道路や景勝地周辺等、山ぎわでの間伐を進めます。 (平成22～26年度 55集落(10集落/年)) <p style="text-align: right;">20集落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐材の搬出に加え、森林浴や獣害対策などに活用できる作業道の整備を進めます。 ・人工乾燥施設の導入を毎年1基、3年間支援し、工務店が求める品質の確かな人工乾燥材の生産拡大により、県産柱材の利用を拡大します。 (平成26年度 2,800 m³) <p style="text-align: right;">3,300 m³</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル住宅団地の木質化やマンションの内装材、オフィス家具など新たな分野での利用開拓を進めます。 ・「山の市場」を整備し、林地残材や薪等を自伐林家、商店街、森林組合等が共動して、販売できる仕組みづくりを進めます。(平成26年度 -) <p style="text-align: right;">2地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山から搬出した間伐材をA、B、C材に選別、効率的に出荷するためのウッドターミナル等を整備し、木質バイオマスへの安定供給を着実に進めます。 (平成26年度 -) <p style="text-align: right;">1か所</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>コミュニティ林業については、集落の代表者等を対象に、リーダー研修会(5地区)や全県下の活動報告会を開催し、働きかけを進めた結果、20集落で木材生産組合が設立され、3万m³(3月末)の間伐材が生産されました。山ぎわでの間伐については、永平寺へ向かう国道沿いや熊川宿周辺国道沿いなどで実施しました。</p> <p style="text-align: right;">20集落</p> <p>朝倉トレイルラン(福井市)やフットパス体験会(小浜市)などで作業道の活用を進めたほか、里山や農地への被害を防止するため、作業道等に獣害防止柵を8km設置しました。</p> <p>住宅での県産材の利用拡大については、製材所が共動し設立した協同組合で人工乾燥機を整備し、一元的に乾燥を行った結果、今年の2割増となる柱材が生産されました。</p> <p style="text-align: right;">3,350 m³</p> <p>若狭町天徳寺の住宅団地において、ごみステーションや住民が集う広場のベンチや柵などの木質化を進め、木の温もりある空間を創出しました。マンション内装材については、デザイン性の高い7種類の部材を開発し、内覧会等でマンションオーナー等にPRしました。オフィス家具については、大手メーカーと共動で県産材による応接テーブルやパーティションなど4種類を開発しました。</p> <p>山の市場については、池田町と福井市美山地区で運営を行う協議会が設立されました。11月(池田町)と3月(美山地区)には、林地残材等の定期的な買取りが開始されるとともに、農産物や薪などを販売するイベントも開催され、都市部等から100名が参加するなど交流も促進されました。</p> <p style="text-align: right;">2地区</p> <p>ウッドターミナル等については、福井市朝谷町および坂井市坪江において整備しました。ここで仕分けした間伐材は大型車で需要先へ直送するなど、流通が効率化されました。</p> <p style="text-align: right;">2か所</p>

項目	実施結果
<p>2 福井から人材育成 ◇産業人材の育成・誘致システム ○県内外からの誘致を強化 ・県内外での就労相談会や専門学校等訪問を実施し、UIターン者を対象とした研修や奨励金制度をPRすることにより、県内外から人材を確保します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>これまでに農業系大学や専門学校、ハローワークなどの就農斡旋機関、食や農業関連の出版社を訪問するなど都市圏を中心に誘致活動を展開しました。</p> <p>また、東京、大阪、名古屋において、就農誘致セミナーや林業・漁業就業相談会（21回）を開催するとともに、本県の園芸や園芸カレッジの研修内容を実感できるバスツアーや林業・漁業体験研修会、相談会を実施し、就業環境や独自の研修制度、支援策を紹介しました。</p> <p>また、県内の高校において説明会を開催するなど、県内外から新規就業者の確保を進めました。</p> <p>これらの誘致活動の結果、ふくい園芸カレッジには、新規就農コースの第3期生として県外からの22人を含む30人の入校生を確保しました。</p>
<p>○人材育成カレッジなど研修体制を充実・強化 ・園芸カレッジにスマート園芸コース（ICTを活用した夏獲りイチゴ、ミディトマトの多収技術、パプリカの周年栽培技術）を新設するなど研修体系の充実や、県独自の45歳以上の県外者への給付金拡充により、生産技術や経営能力を有する新規就農者を確保します。（平成26年度 61人）</p> <p style="text-align: right;">80人</p> <p>・ふくい水産カレッジの開設や里親制度、短期研修制度、定着資金貸付制度を強化することで、新規漁業就業者を確保します。（平成26年度 14人）</p> <p style="text-align: right;">20人</p> <p>・高性能機械のオペレータ養成研修の新設など、林業の担い手育成機関の研修を充実し、高い技術力を持つ新規林業就業者を育成します。（平成26年度 32人）</p> <p style="text-align: right;">40人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ふくい園芸カレッジの研修体制の充実・強化を図るため、昨年8月に園芸研究センター(美浜町)内にスマート園芸コースを開講し、大規模施設園芸希望者3名が研修生としてICTを活用した技術を学んでいます。県独自の45歳以上の県外者への給付金拡充等により、今年度はこれまでにふくい園芸カレッジを卒業する23人を含む80人が本県で就農しました。</p> <p style="text-align: right;">80人</p> <p>昨年6月に水産カレッジを開設し、海女コースに1人が入校し講習を開始しました。3月には県外出身の2人が漁船漁業コースに入校し研修を開始しました。</p> <p>また、就業希望者18人に漁業体験研修等を実施し、定置漁業や底曳網漁業等への就業に結び付けました。</p> <p style="text-align: right;">21人</p> <p>就業希望者を対象にした林業体験研修(2回)を開催し、新規就業者の確保・育成を進めました。</p> <p>また、高い技術力を有する人材を育成するため、高性能林業機械のオペレータ研修や作業道開設研修、先進国(オーストラリア)の林業技術者による研修などの低コスト化搬出技術研修を20回開催し、302名が受講しました。</p> <p style="text-align: right;">40人</p>

項 目	実 施 結 果
<p>3 日本一の安全・安心 ◇あらゆる災害対応を迅速第一【部局連携】 ○ハード・ソフトの県土強靱化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元と共動して農業水利施設の点検・管理体制を強化し、災害を未然に防止するとともに機能診断に基づく機能保全計画を策定し、施設の長寿命化対策を徹底します。 (平成26年度累計 234施設) <p style="text-align: right;">46 施設増 累計 280 施設</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>新たに農業水利施設46施設について、機能診断を行い、施設の老朽化の状況を把握しました。 また、安全・安心を確保するための対策を適切に行うため、機能保全計画の策定を行い施設管理者に対して周知するなど長寿命化対策を推進しました。</p> <p style="text-align: right;">46 施設増 累計 280 施設</p>
<p>4 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に ◇元気な里山里海湖【部局連携】 ○福井の豊かな里山里海湖を次世代に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田魚道などの生態系保全や植栽などの農村景観保全に取り組む集落数を拡大し、豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に繋げます。 (平成26年度累計 550集落) <p style="text-align: right;">140 集落 累計 690 集落</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>農村環境保全活動に関する研修会の開催(12回)や活動組織に対する指導・助言等を強化することで、豊かな環境等を次世代へ繋げるための活動を推進し、新たに農村環境保全に取り組む集落を拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">168 集落 累計 718 集落</p>
<p>5 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に ◇県民総参加の福井国体【部局連携】 ○花づくり活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内全域の公民館単位に花いっぱい運動推進員220名を配置し、花づくり活動を進めます。 ・福井国体開催に向けた花づくり活動の機運の向上のため、全国規模の花の大会(平成29年度開催)を誘致します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>花いっぱい運動推進員は、今年度、新たに87名を委嘱し、220名が地域での花の植栽や花壇づくりを行いました。また、花のスクールステイによる観光地への花の植栽や、三方五湖周辺でのコスモスの植栽など県内6か所(200ha)での花の拠点づくりを行いました。</p> <p>全国花のまちづくり大会を実施している(公財)日本花の会を訪問し誘致活動を実施した結果、平成29年度に本県での大会開催が決定しました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)